

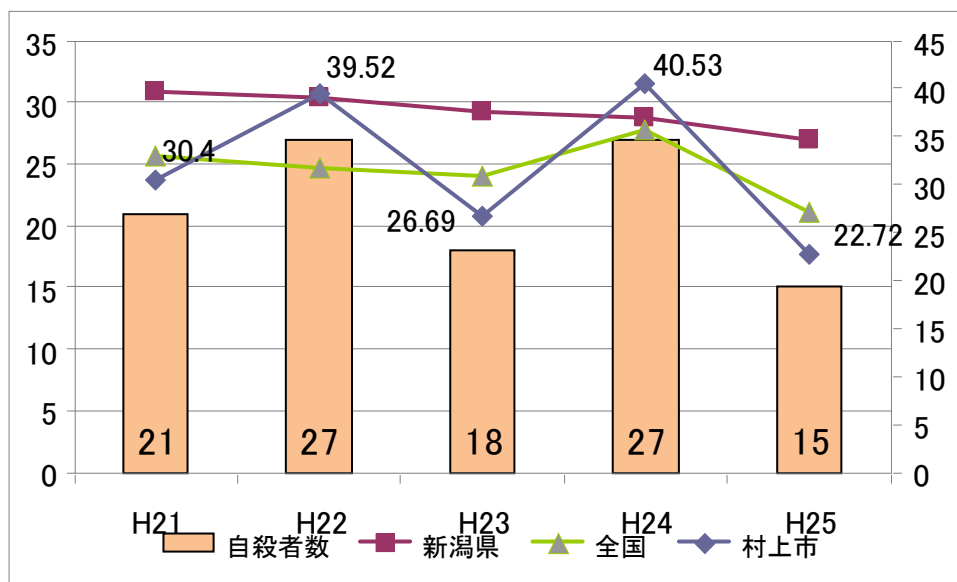
第2章 村上市の自殺の現状

1 自殺者数・自殺率の推移

平成25年の村上市の自殺者数は15人でしたが、毎年約20人前後の方が自殺で亡くなっています。平成22年と24年に27人と最も多くなり、増減を繰り返しながら推移しています。

本市の自殺死亡率は、全国・新潟県の自殺死亡率と比較すると、高い傾向が続いています。

【図1】自殺者数・自殺死亡率の推移（平成20～25年）



資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

【表1】自殺死亡率の推移（平成21～25年）

（単位：人口10万人対）

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
村上市	30.40	39.52	26.69	40.53	22.72
新潟県	30.85	30.40	29.26	28.67	26.94
全国	25.56	24.66	24.06	27.78	21.06

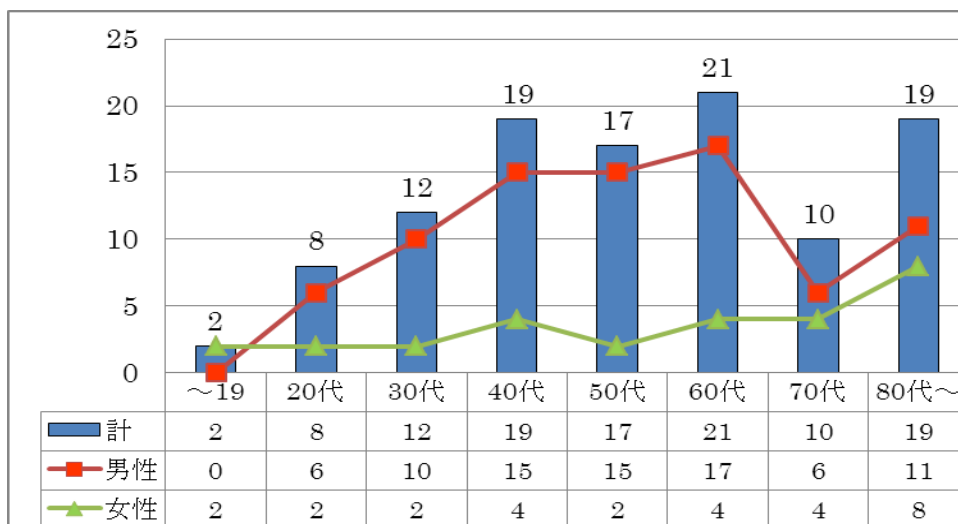
資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

2 年代別・男女別自殺者数

平成 21 年から 25 年までの自殺者について、男性は働き盛りである 40～60 代で多くなっています。一方、女性では高齢者の 60～80 代で多くなっています。年代によって開きはありますが、圧倒的に男性が多く、女性の 3～7 倍にのぼっています。

【図 2】年代別・男女別自殺者数（平成 21～25 年）

（単位：人）



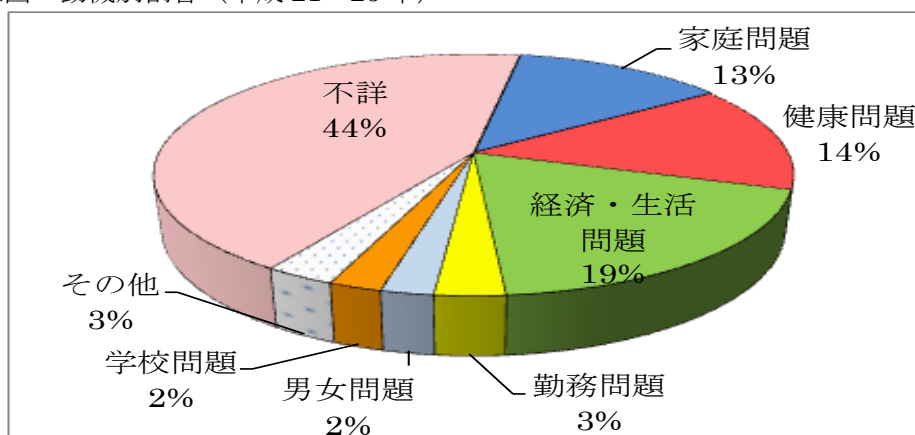
資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

3 原因・動機別の状況

全国、新潟県（平成 21～25 年総計、地域における自殺の基礎資料（内閣府）より）では、健康問題、経済・生活問題、家庭問題の順に多くなっているのに対し、村上市は経済・生活問題が 19%、次いで健康問題が 14%、家庭問題 13% の順に多くなっています。職業別の状況から、自殺者の多くは定職に就いていない人が多い状況が考えられます。

自殺の背景にはいくつかの原因が重複していることが多く、一つに特定できません。しかし、村上市の平成 21 年から 25 年までの自殺者の原因・動機別として、この上位 3 つで全体の半数を占めています。

【図 3】原因・動機別割合（平成 21～25 年）



※遺書等の自殺を裏付ける資料より明らかに推定できる原因・動機を3つまで計上可能としている。

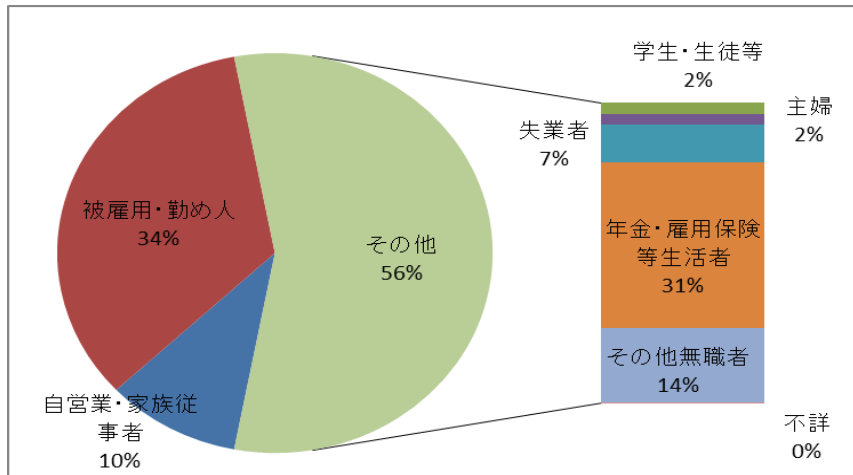
資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

4 職業別状況

平成21年から25年までの自殺者を職業別で見ると、「被雇用・勤め人」が3割、「自営業者」が1割を占めています。学生（2%）・主婦（2%）・失業者（7%）・年金等生活者（31%）・その他の無職者（14%）を合わせた「その他」が5割です。

原因・動機別状況から、経済・生活問題を抱えている人が最多であり、経済状況・就業状況との関連も考えられます。

【図4】職業別割合（平成21～25年）



年金・雇用保険等生活者：国民年金、雇用保険で生活している人。雇用保険は失業した人や育児・介護のために一時的に就業が困難になった人に対して各種給付を行う制度。

その他無職者：主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者以外の全ての無職者（利子・配当・家賃等生活者、浮浪者、その他の無職者）が含まれる

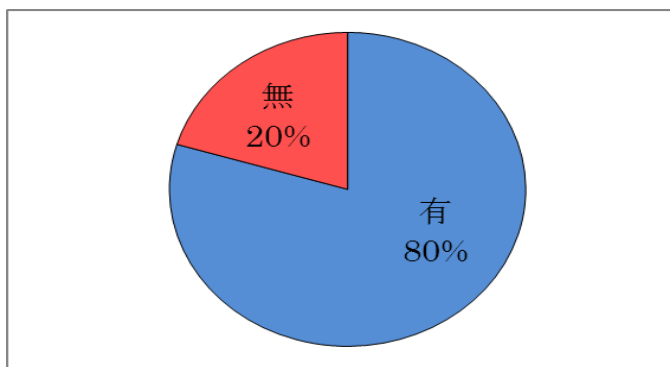
資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

5 自殺時の状況

(1) 同居人の有無について

平成21年から25年までの自殺者は、家族と同居している人が8割にのぼりました。家族と生活をしていても、家庭内孤立や孤独感を感じている人がいるのではないかと思います。

【図 5】同居人の有無（平成 21～25 年）



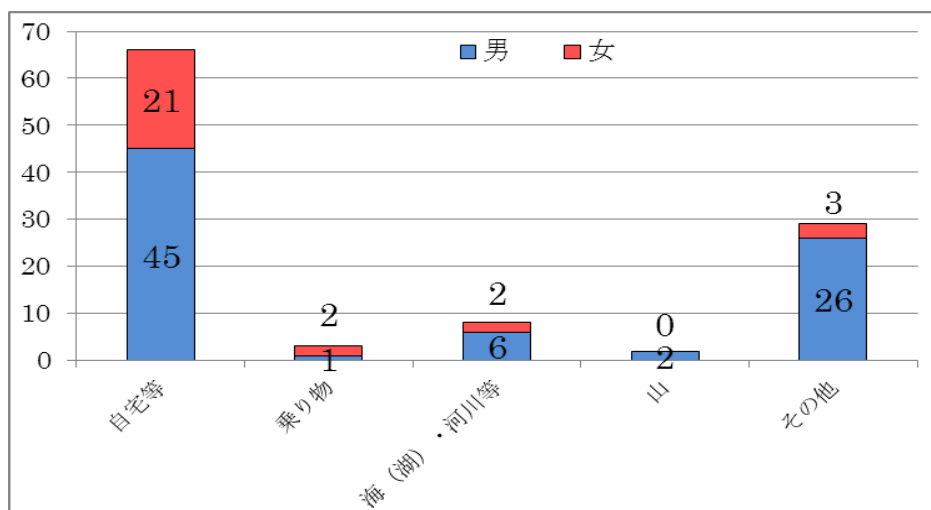
資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

(2) 自殺企図の場所及び手段について

平成 21 年から 25 年までの自殺企図の場所は、6 割が自宅となっています。男女問わず多い傾向にあります。手段については、縊頸をする人が全体の 7 割を占めています。これは、男女問わず多い傾向にあります。

【図 6】男女別自殺企図の場所（平成 21～25 年）

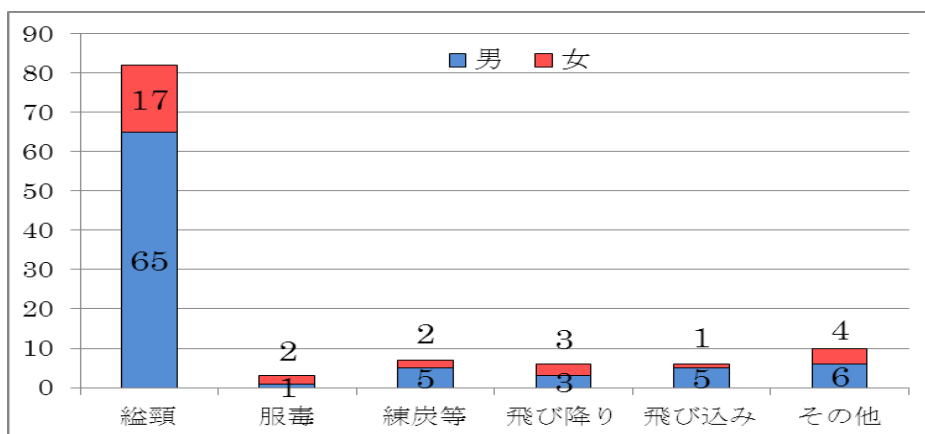
（単位：人）



資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

【図 7】男女別自殺の企図手段（平成 21～25 年）

（単位：人）



資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

(3) 曜日別及び時間帯について

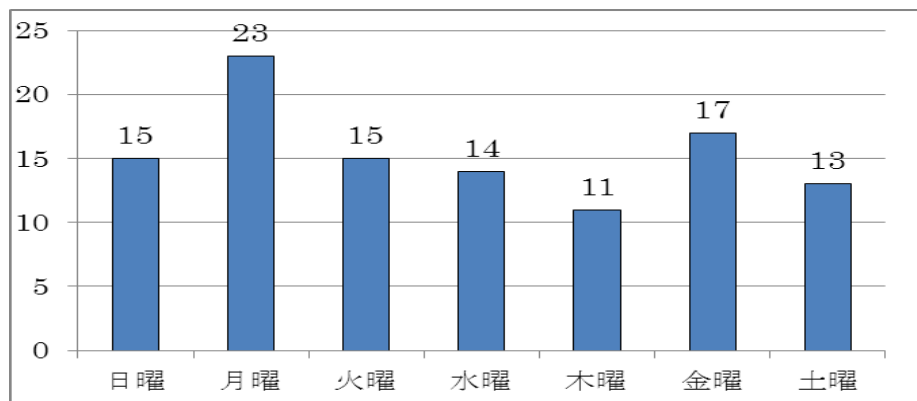
平成 21 年から 25 年までの自殺に至った曜日について、男女総計で見ると村上市では月曜日、金曜日の順に多くなっています。これらは、週の始めと終わりであることから、仕事との関連が考えられます。また、全国、新潟県も月曜日が最多であります。次いで多いのが火曜日となっています。

男女別で見ると、男性は月曜日、金曜日、女性は水曜日、土曜日に多い傾向があります。

時間帯について、本人を含めた家族が目覚め、活動を始める時間帯である早朝（6～8 時）が、村上市では最多となっています。全国、新潟県共に、6・8 時の時間帯が最多ではないものの、日付の変わった深夜から正午までの間、午前中に亡くなっている傾向にあるようです。

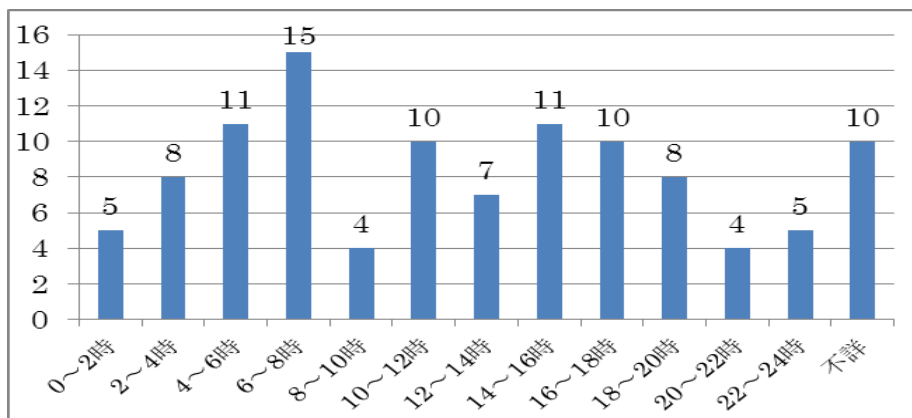
【図 8】曜日別総計（平成 21～25 年）

（単位：人）



【図 9】時間帯別総計（平成 21～25 年）

（単位：人）

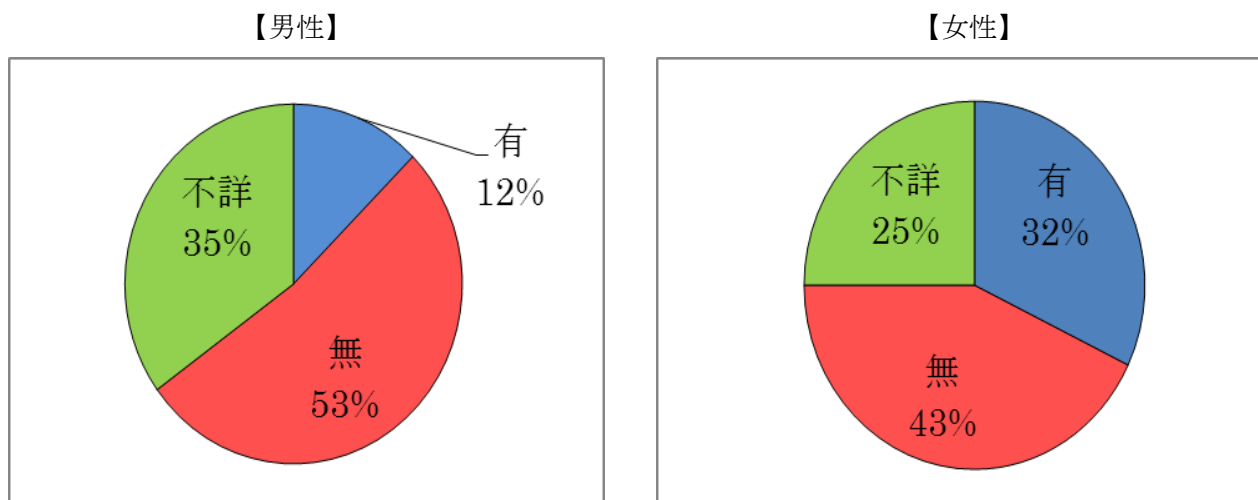


資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

(4) 未遂歴の有無について

平成 21 年から 25 年までの自殺者のうち、未遂歴のある男性は 1 割に対し、女性では 3 割に上っています。再企図のリスクは高まるため、未遂者の把握も必要になると考えられます。

【図 10】 男女別未遂歴の有無（平成 21～25 年）



資料：地域における自殺の基礎資料（内閣府）

6 自損事故救急出動数

H21～25 年における村上市消防本部が出動した統計（総数）です。村上市・関川村内で発生した自損行為への出動件数のため、市外の方も含まれます。

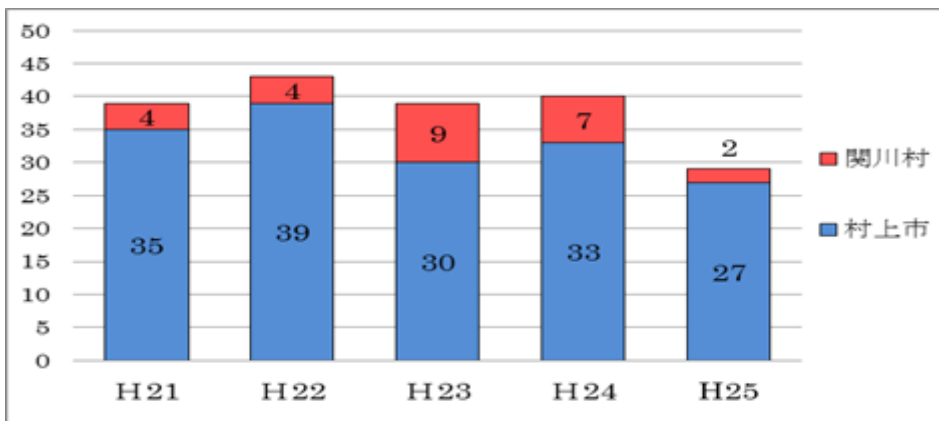
※自損事故：故意に自分自身に障害を加えた事故

(1) 出動件数

自損行為に関する出動については、村上市では毎年 30 件前後となっています。

【図 11】 村上市・関川村別出動件数

(単位：件)



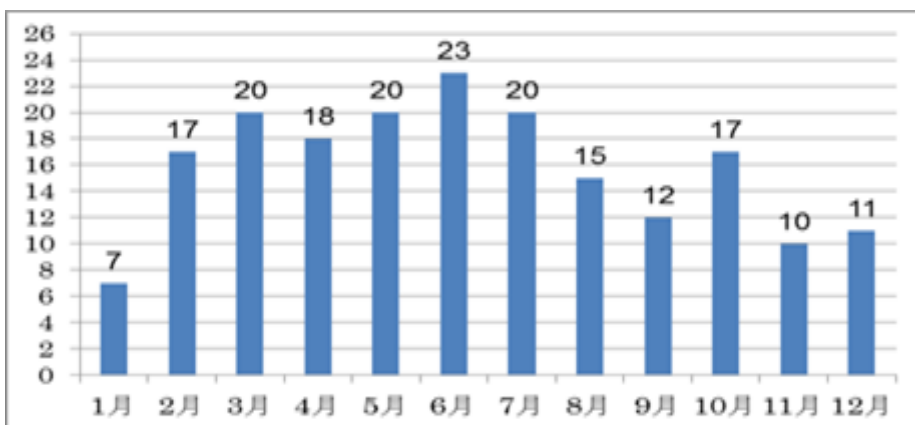
※各出動件数は、搬送・不搬送を合計した数字

(2) 月別出動件数

11月・12月・1月に少なくなっています。

【図 12】 月別出動件数（関川村含む）

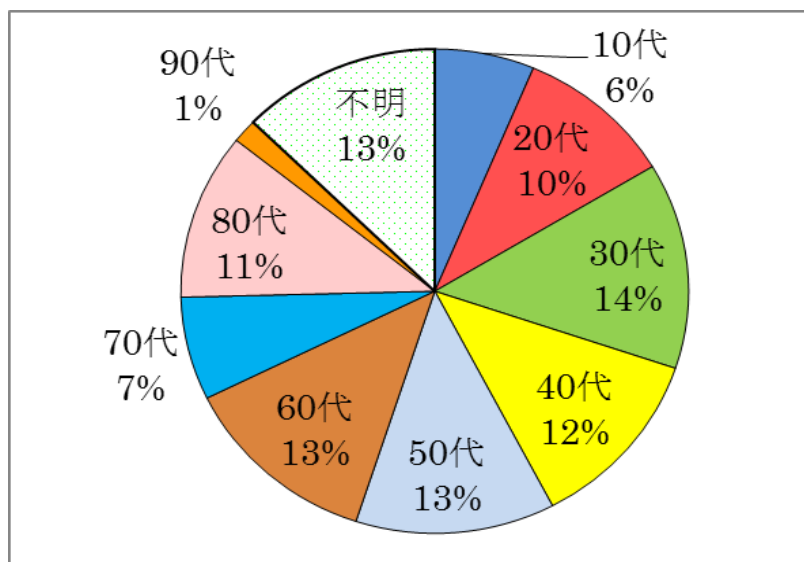
(単位：件)



(3) 年代別出動件数

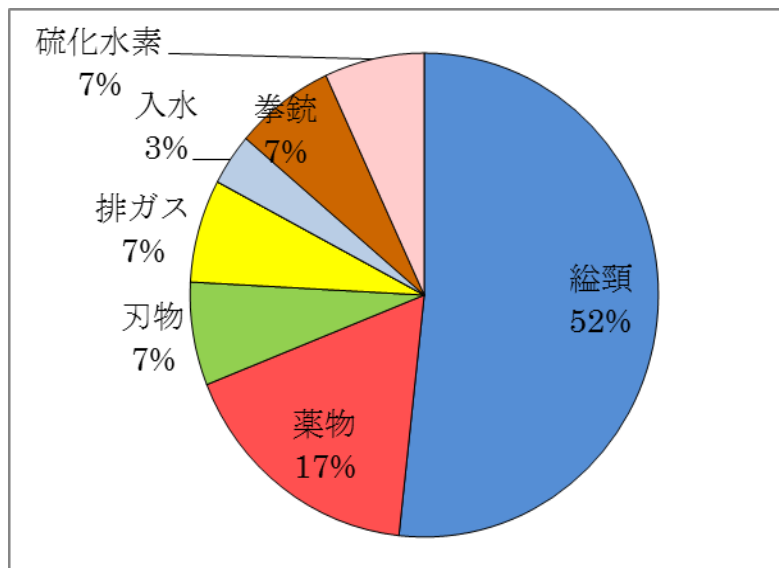
どの年代にも差がなく出動しています。

【図 13】 年代別出動件数（関川村含む）



(4) 自損行為種別 (平成 25 年)
 総額が約半数を占めています。

【図 14】自損行為種別 (関川村含む)



7 こころの健康チェック (平成 25 年度うつスクリーニングのまとめ)

市では特定健診時に、下記の一次スクリーニング (図 15) を実施しており、平成 25 年度は 30～64 歳までの 2,652 人に行いました。一次スクリーニング (図 15) の結果は表 2 のとおり、男性が全体の約 12% と高く、特に 40 代の男性の割合が多くなっています。

一次スクリーニングで「はい」が 2 項目以上ある場合に、二次スクリーニングの対象者として抽出し、聞き取りを行いました (図 16)。対象者 257 人のうち、二次スクリーニング実施者は 211 人であり、そのうち、生活への支障がある人の割合は約 56% と、半数にのぼりました。(表 3)

面接内容を見ると、悩みの原因では健康問題、家庭問題、勤務問題の順に多くなっています。(図 17)

【図 15】 一次スクリーニング

ここ 2 週間の間の状況についてお答えください。		
毎日の生活に充実感がない	はい	いいえ
これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	はい	いいえ
以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる	はい	いいえ
自分が役に立つ人間だと思えない	はい	いいえ
わけもなく疲れたような感じがする	はい	いいえ

【表 2】 一次スクリーニングまとめ

(単位：人)

年齢 (歳)	有効回答数		一次スクリーニング： 2 項目以上該当者	2 項目以上 該当者割合
	男	女		
30 歳代 (30～39)	男	95	12	12.6%
	女	238	27	11.3%
40 歳代 (40～49)	男	144	20	13.9%
	女	248	20	8.1%
50 歳代 (50～59)	男	223	23	10.3%
	女	445	42	9.4%
60～64 歳	男	474	56	11.8%
	女	785	57	7.3%
30～64 歳	男	936	111	11.9%
	女	1716	146	8.5%
合計		2652	257	84.8%

【図 16】 二次スクリーニング

①ひどく気分が沈みこんで、憂うつになっていることはありませんか	はい	いいえ
②生活が楽しめなくなっていますか	はい	いいえ
③眠れなくなったり、食欲が落ちたりして、生活のリズムが乱れていませんか	はい	いいえ
④つらくて死にたいという気持ちになっていませんか	はい	いいえ
⑤困ったことがあるときに相談できる人はいますか	はい	いいえ

【表 3】 二次スクリーニングのまとめ（「生活への支障なし」の方の面接内容を含む）

（単位：人）

年齢	性別	対象者	実施件数	生活への支障なし	「生活への支障なし」割合	生活への支障あり	「生活への支障あり」割合
30歳代 (30～39)	男	12	10	3	30%	6	60%
	女	27	21	4	19%	16	76%
40歳代 (40～49)	男	20	15	6	40%	8	53%
	女	20	15	3	20%	10	67%
50歳代 (50～59)	男	23	21	5	24%	12	57%
	女	42	32	11	34%	21	66%
60～64歳	男	56	46	13	28%	24	52%
	女	57	51	22	43%	22	43%
30～64歳	男	111	92	27	29%	50	54%
	女	146	119	40	34%	69	58%
合計		257	211	67	32%	119	56%

割合は少数第1位を四捨五入

実施できず・不要・記入ミス等 46人

【図 17】 二次スクリーニング時の聞き取り内容

（単位：人）

